

グランド現代百科事典

Grand Gendai

30

リッホーン

学研

グランド現代百科事典

Grand Gendai

30

リッホーン

1983年6月1日 改訂新版第1刷発行

1984年2月1日 改訂新版第2刷発行

全巻セット定価 218,000円

編集・発行人——鈴木泰二

発行所——株式会社学習研究社(学研)

東京都大田区上池台4-40-5 〒145

電話 東京(03)720-1111 (大代表)

振替 東京8-142930

印刷——凸版印刷株式会社

表紙クロス——東洋クロス株式会社

ケース見返し用紙——富士共和製紙株式会社

本文用紙——三菱製紙株式会社

箔押——有限会社斎藤商会

製本——凸版製本株式会社

製函——高田紙器工業所

©GAKKEN 1983

*本書内容の無断複写を禁ず

*この本に関するお問合せ、製本上のミスなどが
ございましたら、下記あてにお願いいたします。

文書は 東京都大田区上池台4-40-5 (〒145)

学研・ユーザーサービス部「グランド現代百科」係

電話は 東京 (03) 720-1111 (大代表)

本書に掲載した地図は、建設省国土地理院発行の2万5千分の
1地形図、20万分の1地勢図を使用して調製したものである。

Printed in Japan

161 280

ISBN4-05-150105-1

◆ 別 刷 目 次	《巻頭口絵》 ● ロボット	● ロココ美術……………	265
	● 歴史画	● ローマ(古代)……………	317
	《別 刷》 ● ルネサンス……………	● ロマネスク美術……………	337
	145		

描かれた歴史上の人物

構成と文／田中 穰

歴史画とは、一般的には歴史上の事件、あるいは歴史的人物を題材とした絵画のことをいう。しかし、広い意味では伝説的（神話的）、あるいは文学的（宗教的）な内容をも題材の絵も含まれる。

そもそも、日本で歴史画という言葉が使われ出したのは、1899（明治32）年に読売新聞社が東洋歴史の画題を募集する懸賞を出したのに始まる。その前年に、岡倉天心が創立した日本美術院（院展）の画家たちが、積極的にこの歴史画に取り組み、現在までその伝統が受け継がれてきている。ここでは、古くは『源氏物語絵巻』のうちの「夕霧」を始めとして、安田靉彦の戦後の作品の『早弥呼』まで、広い意味での歴史画のジャンルに入るものも含む代表作を取り上げてみた。日清・日露から第二次世界大戦に及ぶ戦争記録画にも、歴史画と見ていいものがないではないが、現在とはかくの批判もあるところから省いた。

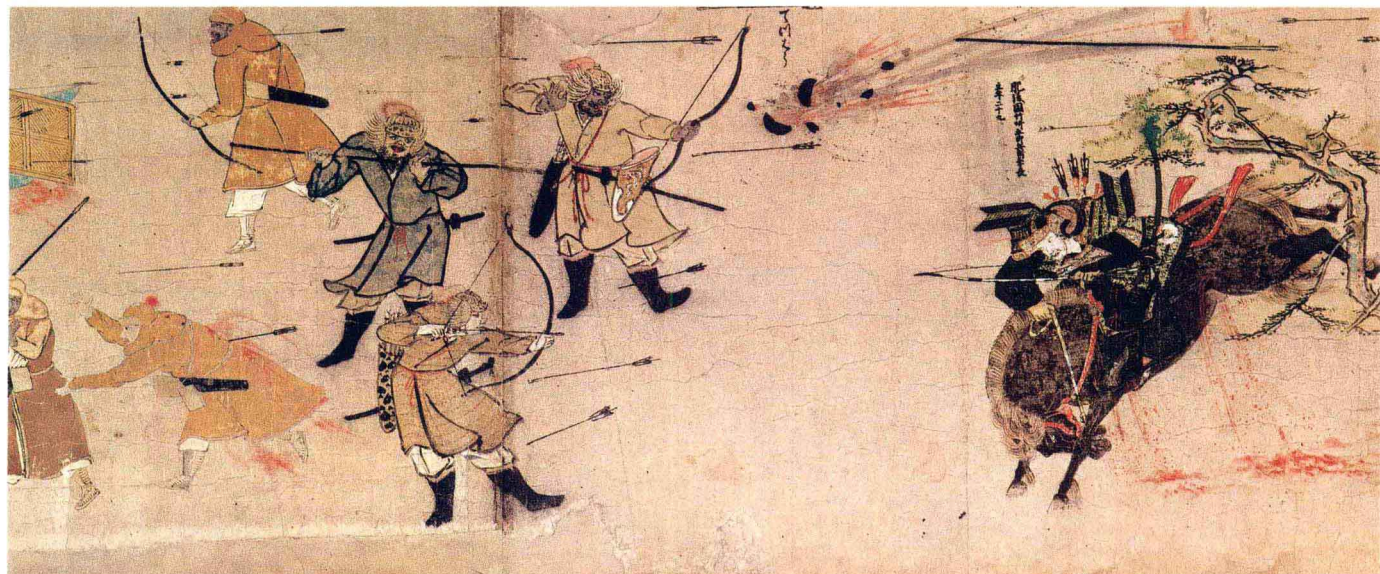
『源氏物語絵巻』の「夕霧」 古く「源氏絵」という呼び名があったほど、盛んに描かれた中でも傑出した阿波蜂須賀家（現在は五島美術館）所蔵の部分。夫夕霧へ送られて来た女性からの文に、嫉妬に狂う雲井雁を描いている。



■歴史画のさががけ

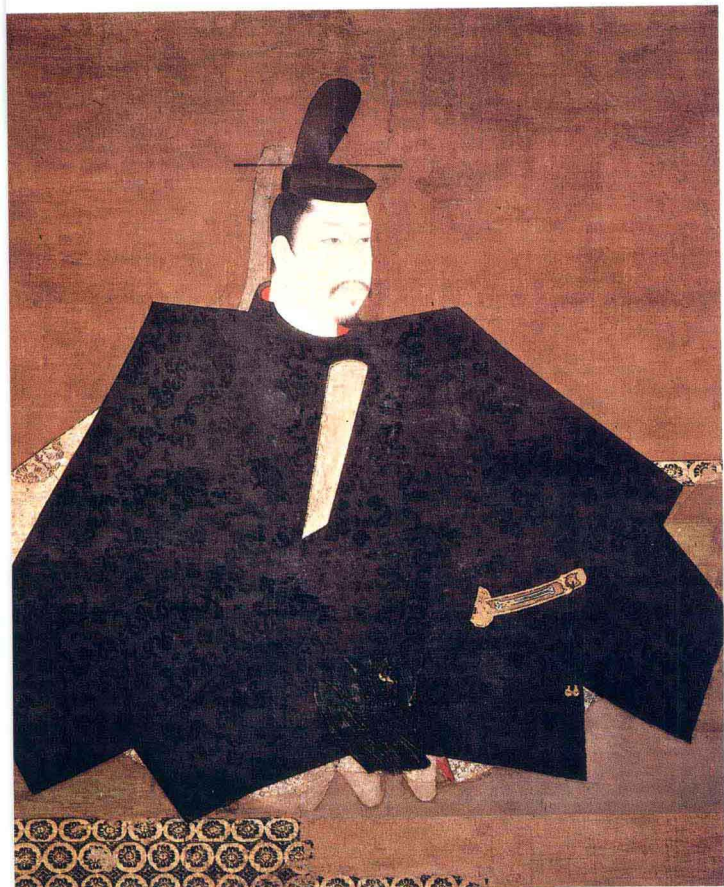
鎌倉時代から桃山時代に及ぶこの6作品に共通して言えることは、いずれも平安時代に生まれた大和絵の描法を用いていることである。特に『平治物語絵巻』など、大和絵風絵巻の頂点を示すものと言ってよい。『源頼朝』のような肖像画、『車争図』のような小説に題材を得たもの、『豊国祭図』のような風俗画にしても、それぞれの時代に表れた人物・事件・群衆、あるいは時代そのもののたくましいエネルギーまでを描き出していることが注目される。

- ①『北野天神縁起』 鎌倉時代 北野天満宮蔵 菅原道真の生涯と、その死後現れる怨霊を鎮めるまでの物語絵巻の部分。恩賜の御衣に泣く配所の道真を描く名シーンである。
- ②『平治物語絵巻』 鎌倉時代 東京国立博物館蔵 1159（平治1）年の源平の戦いを描く絵巻の一部。これは「六波羅行幸の巻」で、「三条殿焼討」を描く1巻は、ボストン美術館にある。
- ③『蒙古襲来絵詞』 鎌倉時代 宮内庁蔵 2度にわたってモンゴルが九州を襲った文永・弘安の役を描く戦闘記録絵巻の部分。
- ④『豊国祭図』 桃山時代 京都 豊国神社蔵 方広寺大仏殿前の豊国踊りを描く大屏風の右部分。武士が政権を取った英雄主義時代にふさわしく、群舞する群衆が目を引く。
- ⑤『車争図』 桃山時代 東京国立博物館蔵 狩野派の初期の天才狩野山楽の屏風絵の部分で、『源氏物語』の「葵の巻」に出てくる車争いを描く。これも圧倒的な群衆表現が見もの。
- ⑥『源頼朝像』 鎌倉時代 神護寺蔵 平重盛像と並んで傑作の誉れ高い似絵（肖像画）。来日したフランスの元文相アンドレ＝マルローがほめて、国際的に知られた。





4

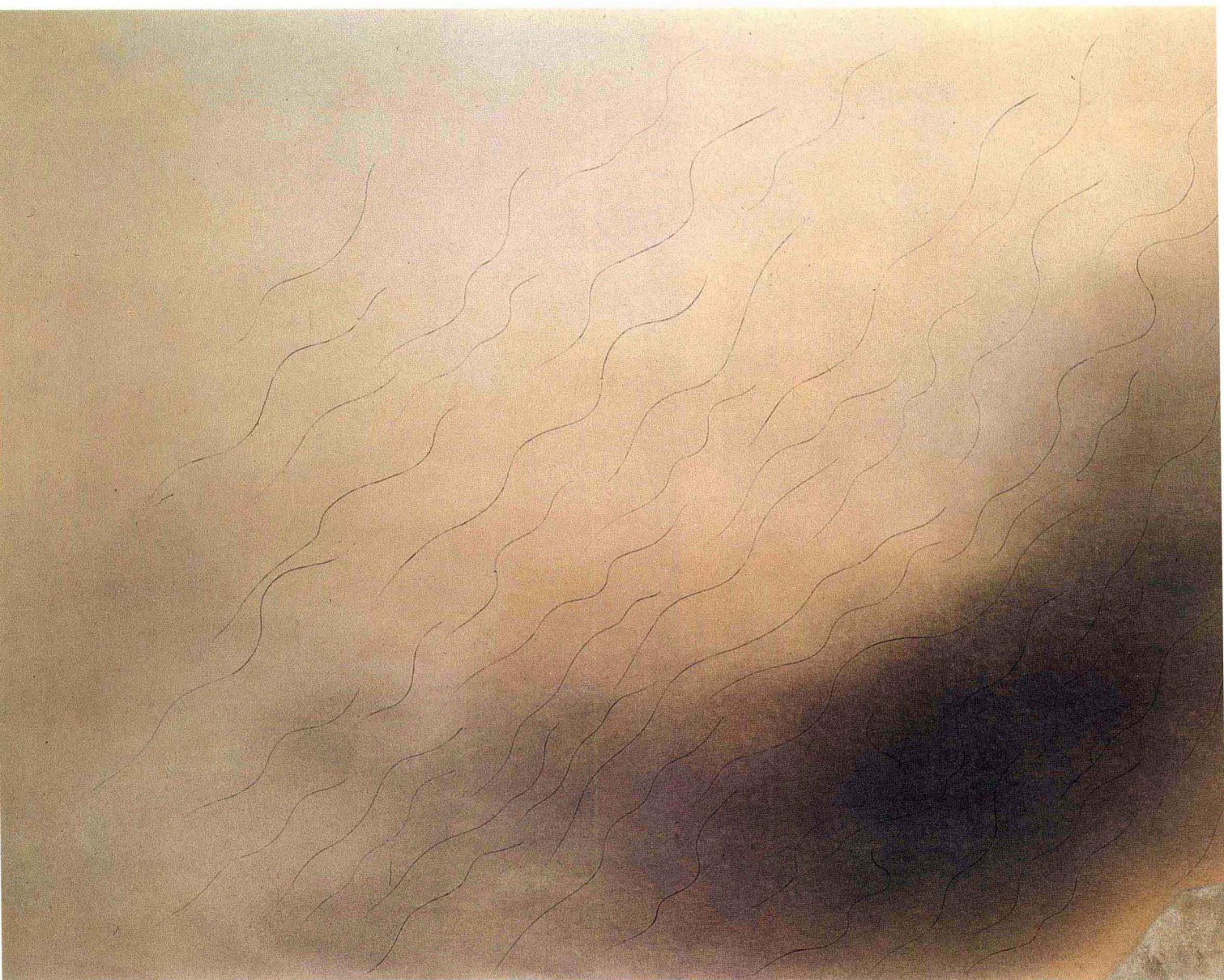


6



5





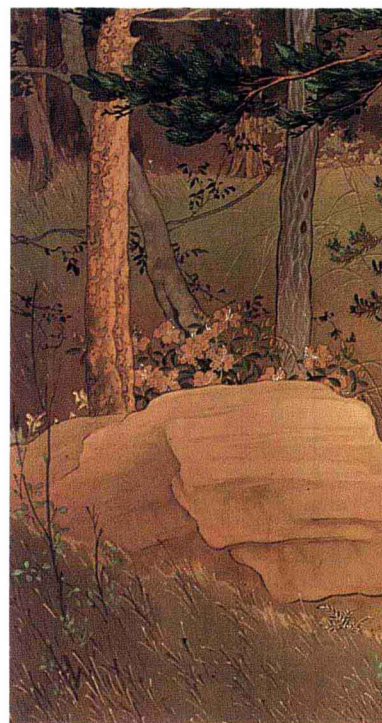
■近代の歴史画

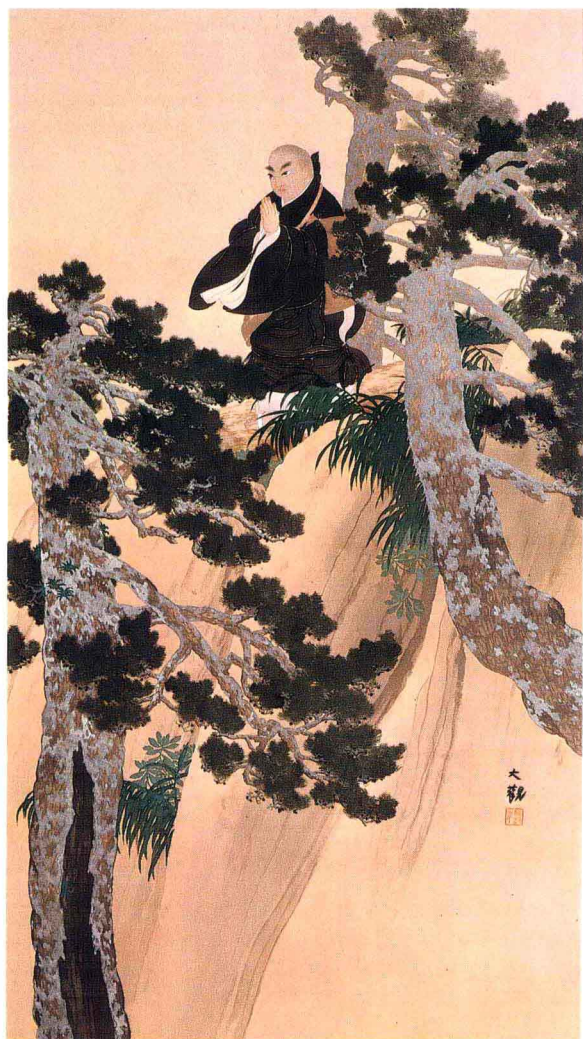
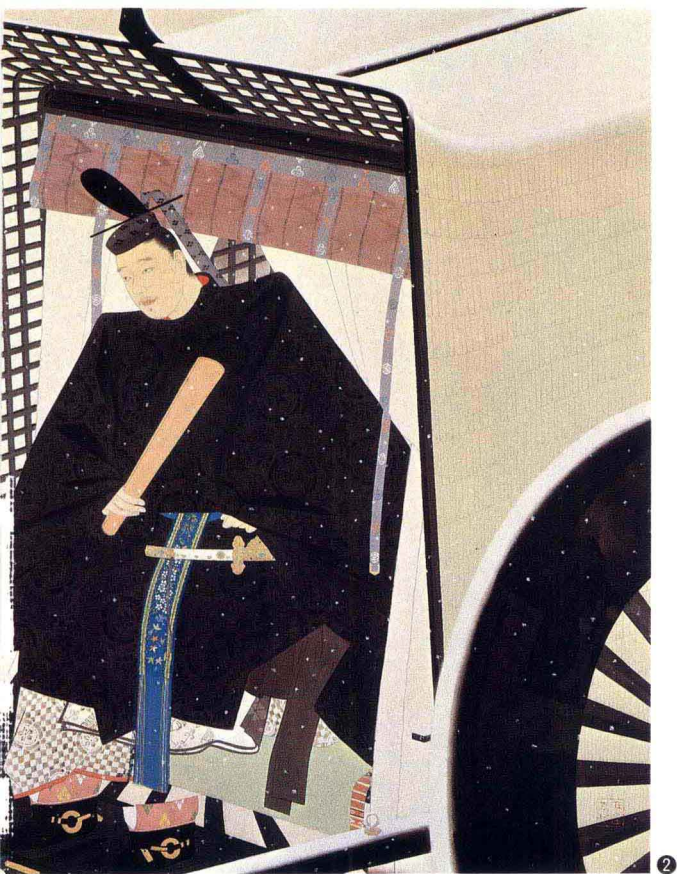
近代の歴史画の流れは、大和絵を中心に日本の古典の復興を目指した日本美術院の画家たちと、新興大和絵の運動を華々しく展開した松岡映丘らによって支えられた。ここでは始祖岡倉天心とともに日本美術院の創立に参画した横山大観と下村観山、これに続く安田靫彦や小林古径のほか、官展系の松岡映丘の代表作をとりあげてみた。

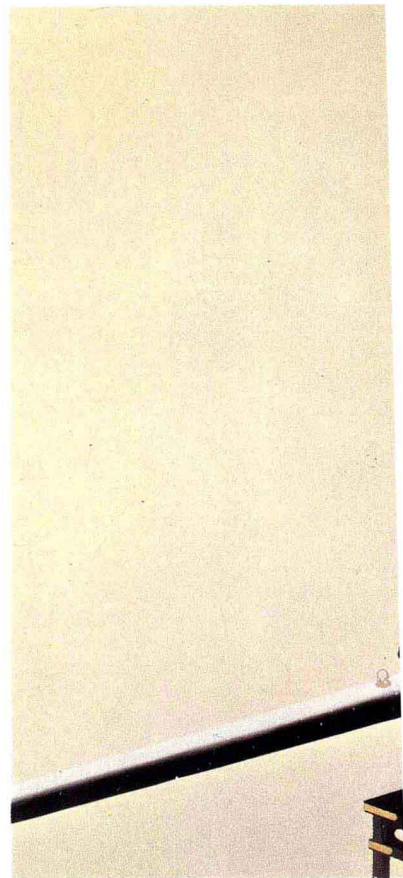
ほかに変わった作品では、油彩で、明治30年代の日本のロマンチズムの爆発的な燃焼の中で描かれた青木繁の代表作『わだつみのいろこの宮』を加えた。

(上) 小林古径『清姫』 1930(昭和5)年
山種美術館蔵 歌舞伎や能で有名な「道成寺」の清姫の話を書き下ろしたその一部で、身を焦がすまでに愛した安珍を追う清姫を描く。清姫、実は大蛇の化身を、王朝絵巻に登場するような女にして、なお前に突き出した手、風になびく黒髪などに、超自然の不思議を盛りこむのに成功している。

(下) 下村観山『大原御幸』 1908(明治41)年
東京国立近代美術館蔵『平家物語』で知られる大原御幸を、6場面の近代絵巻にしたものの一部。平氏が滅びたあと、尼となって京都の大原に閑居した清盛の娘建礼門院を、義父の後白河法皇が訪れる直前のシーンである。







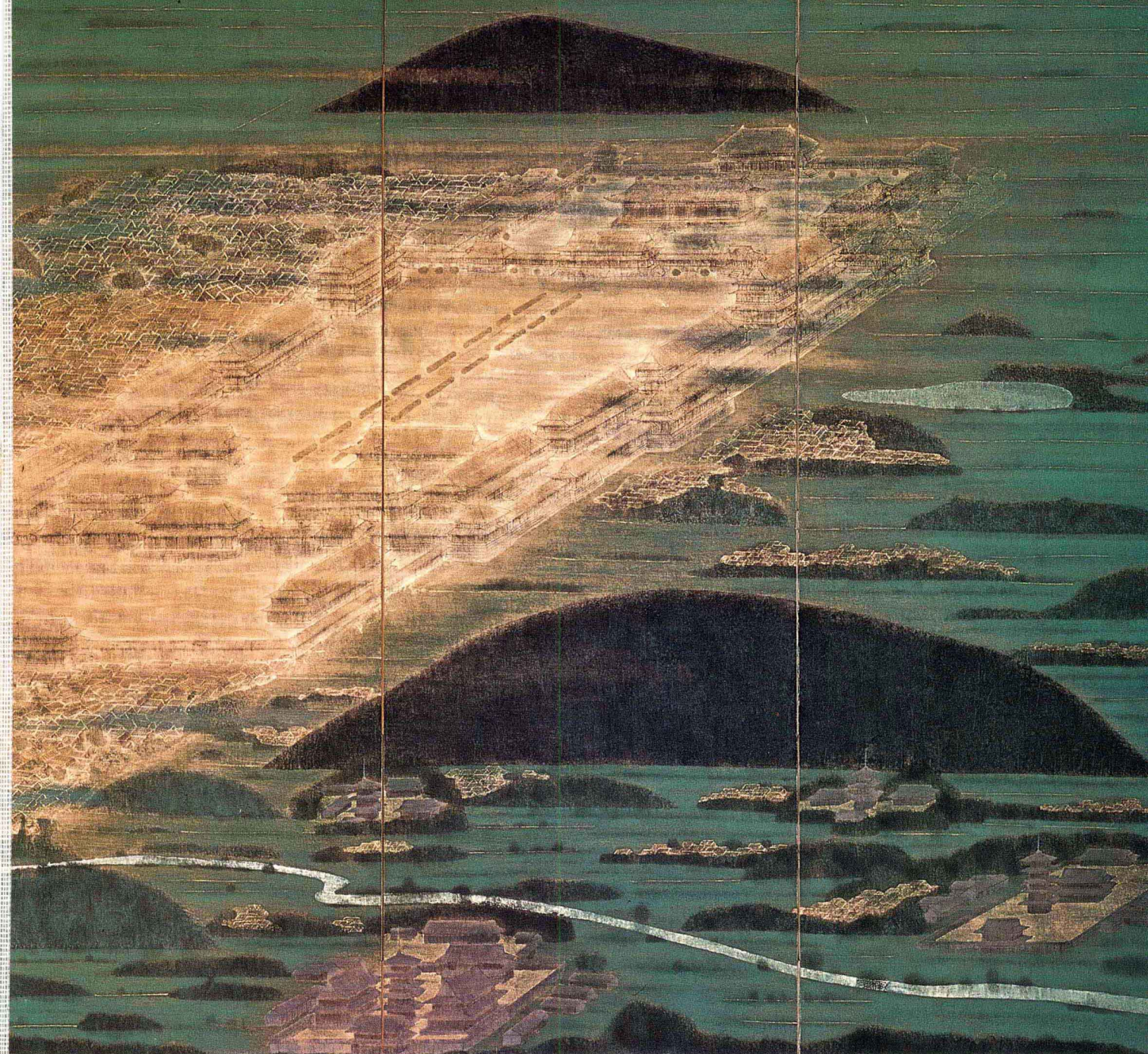
①青木繁『わだつみのいろこの宮』

1907（明治40）年 プリヂストン美術館蔵 日本の神話ウミサチヒコ・ヤマサチヒコの物語に題材を得ている。

②松岡映丘『右大臣実朝』 1933（昭和8）年 日本芸術院蔵 源頼朝の第2子で、鎌倉幕府の3代目の将軍となり、和歌をよくした悲劇の人源実朝をみごとに描いている。

③横山大観『日蓮』 1913（大正2）年ころ 東京国立博物館蔵 千葉県清澄山の中腹の岩頭に立つ日蓮が、日の出に「南無妙法蓮華経」を唱えている図。

④北沢映月『ねねと茶々』 1970（昭和45）年 山種美術館蔵 秀吉の正室ねねと、秀吉の側室（のちの淀君）とを、つまり、乱世に生きた数奇な2人の女性の運命を象徴している。

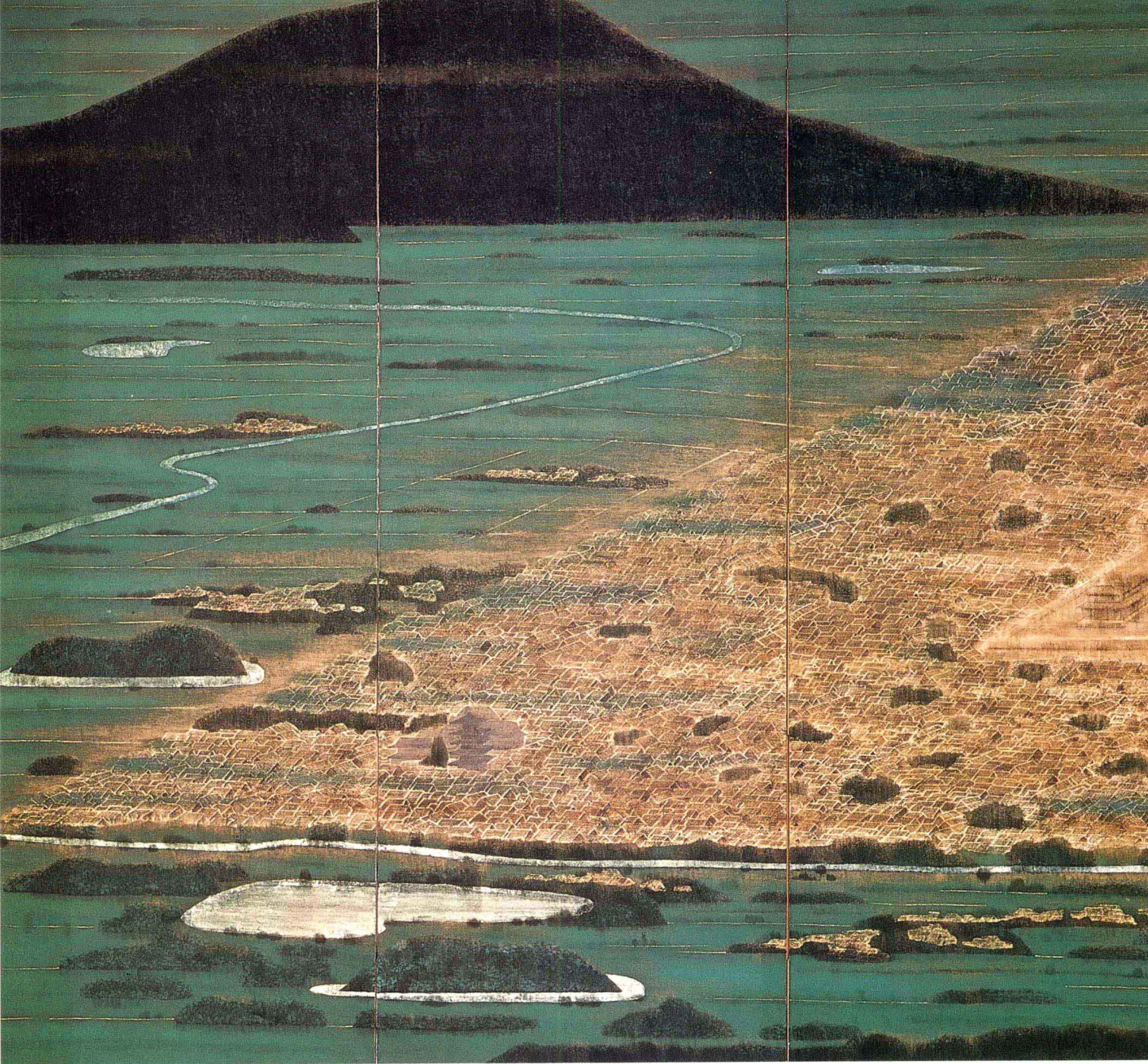


■現代の歴史画

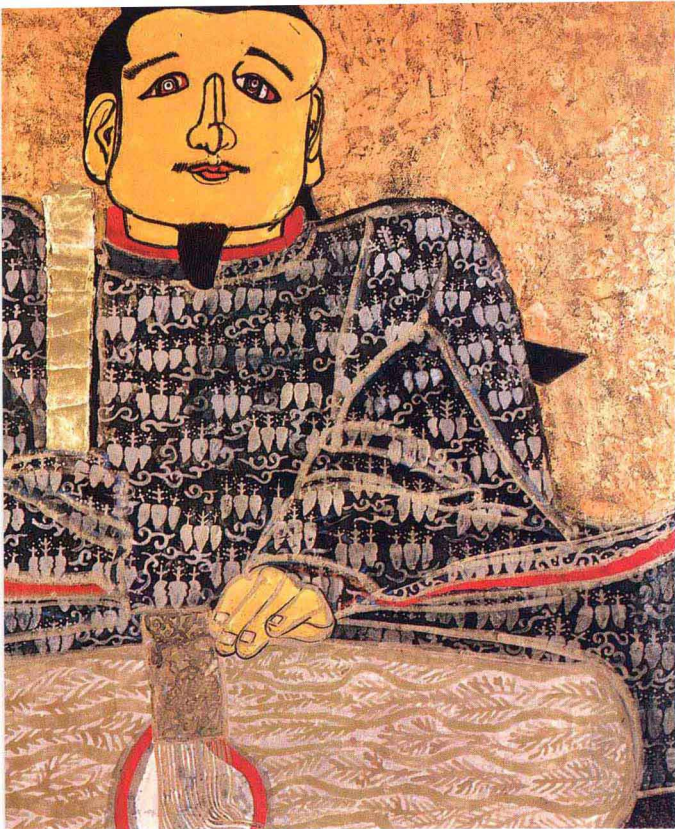
平山郁夫や、森田磯平らにとっては院展（日本美術院）の始祖岡倉天心は、遠い祖父か、あるいは曾祖父といった存在である。1度も会ったことはないのだが、日本画を含む東洋画の近代化に1つの方向を与えた天心の精神を、今や彼らは生きているのである。日本美の源流をシルクロードから、中国にと繰り返し訪ね歩いているのも、あるいは徹底して歴史画の世界に没入しているのも、それである。戦後の日本の歴史画の流れは、この2人のほか、守屋多々志、片岡球子らを含む今の院展の有力作家たちによって、守られている。

（上）平山郁夫『高耀る藤原京の大殿』 1969（昭和44）年 奈良に都がうつる前の3代、すなわち持統・文武・元明3天皇の帝都であった飛鳥の藤原京の繁栄を大画面に描き出している。香久山・畝傍山・耳成山の太和三山も見える。

（左）上村松篁『春丘』 1971（昭和46）年 山種美術館蔵 近代日本が生んだ優れた人物画家松園を母に持った上村松篁は、当代一流の花鳥画家である。これは花鳥の松篁が、全く珍しく挑戦した人物画で、万葉の女流歌人額田王を描いている。







(右) 守屋多々志『平家厳島納経』 1978(昭和53)年 平清盛が、平家一門の繁栄の感謝をこめ、三十余巻の経巻を厳島神社に奉納した1164(長寛2)年9月の情景を描いている。前田青邨の衣鉢を継ぐ守屋多々志が、青邨の1周忌に、鎮魂の思いをこめた傑作。

(下) 森田曠平『出雲阿国』 1974(昭和49)年 山種美術館蔵 安田靫彦を師に歴史風俗画家の道歩く森田曠平の代表作の1つ。草創期の歌舞伎のヒロイン、有名なおくに歌舞伎の阿国を描いている。

(左) 片岡球子『面構足利尊氏』 1966(昭和41)年 神奈川県立近代美術館蔵 この十余年来、上野で開かれる秋の院展に作者が発表し続けている“面構シリーズ”の1つ。ここには現代社会を動かす顔・顔の投影がある。





安田 靱彦『卑弥呼』 1968（昭和43）年 邪馬台国の女王ヒミコを描く。近代日本が生んだ優れた歴史画家の靱彦は、史実の綿密な研究調査により、従来の歴史画に近代の実証性を盛りこむのに成功したが、この作品にも日本古代史のビジョンの見事な具象化が見られる。

原 书 缺 页